

婦人科がん検診をお受けになる方へ

神奈川県産科婦人科医会

婦人科のがん検診は、市町村の公費による検査によっても受けられます。検診の種類は基本的に、「子宮頸がん」「子宮体がん」「乳がん」の3つです。これらは、はじめての方でも受診しやすく、信頼のできる検診です。受診できる年齢などの条件は、市町村によって一部異なりますが、まずはこのパンフレットに目を通して見て下さい。なお、病気のくわしい説明については神奈川県産科婦人科医会ホームページ<<http://www.kaog.jp/>>をご覧ください。

1 子宮頸がん検診

子宮頸がんは子宮の入り口に発生する癌ですが、初期にはほとんど自覚症状はありません。しかし進行するとおりものが増えたり出血などの症状を認めるようになります。症状のない時に検診を受け初期のがんで見付ければ、ほぼ100%治すことができます。最近、この癌の発生年齢が低くなっているため、検診が20歳から受けられるようになりました。

《どのように検査するのですか?》

質問(不正出血の有無・月経周期・最終月経・閉経年齢など)にお答えいただいた後、子宮頸部の表面を軽くこすり、採った細胞を顕微鏡で調べます。痛みもほとんどなく、短時間で行えます。

《どのくらい有効ですか?》

子宮頸がん検診を定期的に行った場合、子宮頸がんによる死亡を大きく減らせることが明らかになっています(子宮頸がんによる死亡を90%以上減らすことができます)。また、初期癌のうちに発見することにより、子宮を残す治療を選ぶこともできます。検査の正確さも高いのですが、100%ではありませんので、神奈川県産科婦人科医会では1年に1回は検診を受けることをお勧めしています。

2 子宮体がん検診

子宮体がんは子宮内部の内膜から発生する癌で、近年著しく増加していますので、注意が必要です。90%以上の患者さんで月経以外の出血や月経量の増加などの症状が見られます。頸がんより高齢者に多く見られます。閉経前の方でもお産の経験のない方や、生理不順の方、子宮筋腫をお持ちの方、乳癌の治療を受けた方などは注意が必要です。

《どのように検査するのですか?》

子宮体がんに対する検診方法としては、細胞診が一般的です。子宮の中に3ミリほどの細い管を挿入しますので、軽い痛みと出血を伴うこともあります。短時間で済みます。お産の経験のない方や高齢者では、入り口が狭く数%の方で検査ができないことがあります。

《どのくらい有効ですか?》

検査の正確さは90%程度です。出血などの症状のある方は病医院を早期に受診すること

をお勧めします。

3 乳がん検診

乳がんは40～50歳台を中心に増加していますが、現在は乳房温存治療が主体となっていますので、早期発見のため定期的な検診をお勧めします。

《どのように検査するのですか？》

乳がん検診は視診、触診、マンモグラフィ（乳房レントゲン）、超音波検査などを組み合わせで行います。また自分で「しこり」をチェックする自己検診も大切です。

《どのくらい有効ですか？》

わが国ではマンモグラフィ併用検診の受診率が5%以下と低いのですが、欧米では60～70%の受診率で乳がんの死亡率が20～30%減っています。受診率が高まれば、欧米のように死亡率も低下すると思われれます。

4 卵巣がんがご心配な方へ

卵巣がん検診を実施している市町村はほとんどありません。しかし、超音波検査や血液検査（腫瘍マーカー）によって早期に発見される卵巣がんもあり、より有効な検診方法の研究開発が進められています。子宮を摘出した方でも卵巣が残っている場合は安心できません。早期には症状のないことが多いので、ご心配な方は病医院へご相談下さい。

【検診の受診と結果報告について】

がん検診の対象者および申込方法・自己負担額は市町村によって異なりますので、各市町村役場の担当課（保健福祉センター・保健所）あるいは病医院にご確認ください。

検査結果の報告については市町村で定められた方法により通知されますが、疑問がある場合は必ず医師にご相談下さい。万が一精密検査が必要とされた場合には、放置せずに必ず指示に従って下さい。

子宮体がん検診は、子宮頸がん検診を受けた方の中で、比較的风险要因のある方に引き続き行うことになっていますので、医師にご相談下さい。

乳がん検診は主に外科および産婦人科医療機関で行われていますが、マンモグラフィを受けていただくこともありますので、2回受診の必要なことがあります。詳しくは病医院にお問い合わせ下さい

【子宮がん検診受診の際に注意すること】

生理期間中の受診や膈内を洗浄されている方などは、検査結果が正しく判定できないことがありますので、受診をお避けください。また、検査日の2～3日前から性生活はお避けください。当日は着脱しやすい服装でお出かけください。

子宮体がん検診では、妊娠している可能性のある方は受けることはできません。ご不明な方は事前にご相談ください。